

MINTETSU
NEWS

みんてつだより

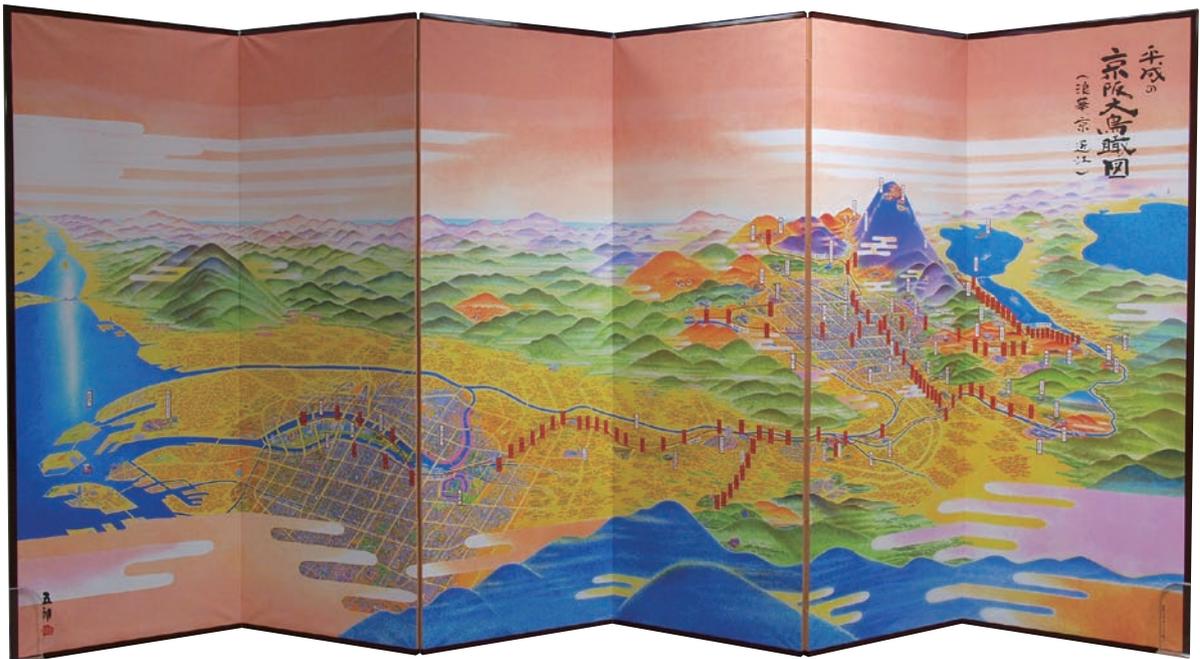
「平成の京阪 大鳥瞰図 (浪華・京・近江)」が完成

京阪電気鉄道株式会社が平成18年の創立100周年を記念して制作を進めていた、京阪沿線の鳥瞰図(パノラマ絵図)が約1年の制作期間をかけて完成しました。

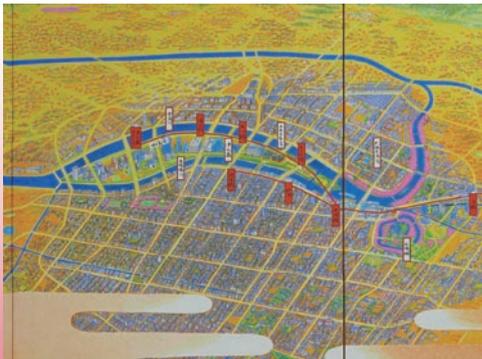
同社は、開業もない大正2(1913)年にも、当時としては画期的な鳥瞰図による沿線案内図絵「京阪電車御案内」を、まだ無名だった吉田初三郎氏の筆により制作。この沿線案内図絵は、関西を行啓中の皇太子殿下(後の昭和天皇)が目にも留められ数部を持ち帰られたことから大変な評判を呼び、全国の鉄道会社がこぞって鳥瞰図づくりに取り組むきっかけになりました。吉田初三郎氏の名前も、この一大ブームの活躍で、鳥瞰図の第一人者として後世に名を留めることになったのです。

「平成の京阪 大鳥瞰図(浪華・京・近江)」は、神戸ポートランド博などのポスターを手がけた絵師の村上五朗氏が制作。今秋開業予定の中之島線も盛り込み、大阪から京都、琵琶湖にいたる沿線エリアが細かく描写されているのに加え、西は北九州エリア、東は東京からその先をも遠望。広がりゆく京阪エリアをイメージさせる壮大なパノラマ図となっています。

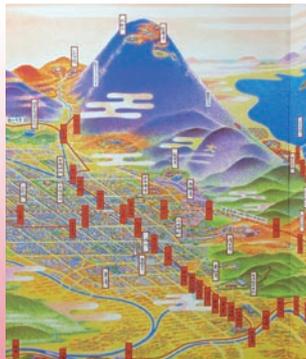
鳥瞰図は、鉄道案内の路線図やイベント時の背景デザイン、さまざまなグッズの図柄に幅広く利用することが計画されており、観賞用に制作された六曲一隻の屏風(縦176×横360cm)は、今後、駅構内のショーケースなどで展示される予定です。



浪華



京



細かい描写とぬくもりのあるタッチは安全性を重視し、沿線地域と密着した「蟻の視点」を、鳥瞰図の技法は長期的なビジョンを持ち、周囲を見渡す「鳥の視点」を――大鳥瞰図は、その両方を併せもつ同社の経営の視点を表現している。